

ナツエビネ *Calanthe puberula* Lindl.

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 4、固有性階級 2、総点 13。自然度の高い林内に生育するラン科植物で、全国的にも愛知県でも園芸目的で集中的に採取されており、減少傾向が著しい。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 20~40cm になり、基部はふくらんで球状の偽球茎となり、数年分が残存して横に並ぶ。葉は茎の基部に 3~5 個つき、長楕円形、長さ 10~30cm、幅 3~6cm、先端は鋭尖頭、表面は光沢がなく帯白緑色、このほか茎上に 1~2 個の鱗片葉がつく。花期は 7~8 月、花は茎の上部にまばらに 10~20 個つき、淡紅紫色、苞は披針形、長さ 1~2cm である。背がく片は狭卵形、側がく片は斜卵形、いずれも長さ 15~20mm で鋭尖頭、側花弁は線形でがく片よりやや短い。唇弁は心状広卵形、3 深裂し、幅 7~10mm、中裂片はくさび状広楕円形で辺縁は細波状となり、先端は突出し、隆起条はない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：6 設楽西部 (村松正雄 11835, 1992-8-30)、8 鳳来北東部 (芹沢 59880, 1991-8-24)、9 鳳来南部 (加藤等次 739, 1992-1-8)、11 作手 (小林 54168, 1994-10-6)、14 蒲郡 (小林 79818, 2003-8-7)。尾：37a 瀬戸 (塚本威彦 337, 1992-8-20)、48 春日井 (日比野修 3014, 1995-7-29)。4 津具からも報告されている (小林 2006)。2 豊根 (下黒川, 加藤等次 s.n., 1967-8-25) で採集された標本もある。西三河ではまだ発見されていない。

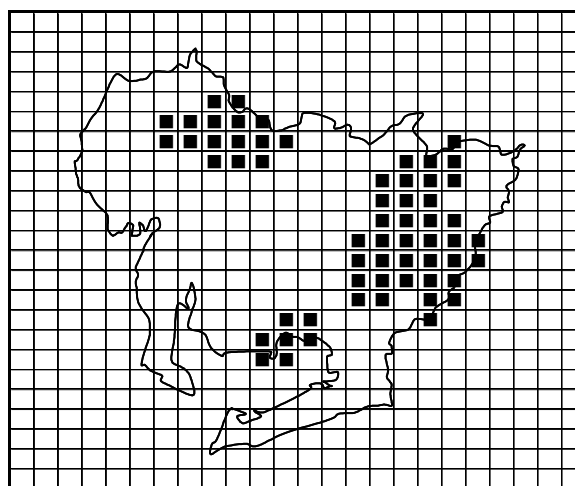
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、済州島、台湾、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内に生育する。エビネと異なり、丘陵地の二次林のような場所には見られない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

東三河の山地には比較的多かったが、エビネブームで乱獲され、激減した。現在では目に付きにくい場所に僅かに残存しているにすぎず、すでに絶滅してしまった場所も多い。

【保全上の留意点】

エビネと同様園芸目的の採取圧が強く、見つければすぐ掘り取られてしまう。分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

日本には十数種のエビネ属植物が知られているが、愛知県に確実に自生しているのはエビネと本種とキンセイランだけである。エビネと異なり花弁の色彩や形状の変異は少なく、古典園芸の対象とはされていなかった。

【引用文献】

小林元男. 2006. 北設楽の植物 p.240. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅲp.54, 平草本Ⅰp.225, 平新版Ⅰp.187, 環境省 p.593, SOS 旧版 p.109, SOS 新版 p.27,29.